

# 教育研究所年報

第 33 号

2024

文教大学教育研究所

# 教育研究所年報 第33号

## 目 次

### 2023年度 事業報告

事業報告 .....	3
第29回「世界の教科書展 特集：マレーシアの教科書Ⅱ」 .....	4
〈学外巡回展〉	
「世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション」 .....	5
定例研究会 .....	6
諸外国の教科書収集 .....	8

### 2024年度 事業計画

事業計画 .....	10
------------	----



## 2023年度事業報告

### <研究部> 研究部主任 山川 智子

#### 1. 「世界の教科書展」の実施

第29回「世界の教科書展 特集：マレーシアの教科書Ⅱ」を、11月3日(金)～5日(日)に対面形式で開催。コーディネーターは、教育学部・当研究所所長の手嶋將博先生。コロナ禍で控えていた教科書の現物展示とパネル展示を再開した。さらに会場で視聴できる動画も用意した【動画の内容 <1>「世界の教科書展」開催にあたり(山川智子) <2>特別講義「マレーシアの社会と文化」(手嶋將博)】。主なパネル解説は教育研究所のHPでも公開。また、12月8日(金)～12月13日(水)に「OKEGAWA hon+」(桶川)でも同内容の「世界の教科書展」を解説パネル展示にて開催し、9(土)・10(日)にはマレーシア教科書の実物も展示した。10(日)は公開講座「マレーシアの社会・文化・教育の概説ー多様性と包摂性の視点からー」(講師：手嶋將博先生)も行った。

#### 2. 『教育研究所年報』第32号の発刊

『教育研究所年報』第32号を5月に発刊した。2022年度事業報告として、第28回「世界の教科書展 特集：マレーシアの教科書」、〈学外巡回展〉「世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション」、定例研究会、諸外国の教科書収集、2023年度事業計画を計11頁に掲載した。

#### 3. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関(他大学を含む)から計11名の客員研究員を受け入れた。

#### 4. 「定例研究会」の実施

2023年度は年3回、8月11日(金)、11月4日(土)、3月2日(土)に「定例研究会」を実施した。(通算第102回～104回)

#### 5. 海外の教科書データベースのデジタル管理化

収集した海外の教科書データベースのデジタル化を作業中。教育研究所が収集した所蔵教科書3044冊中、1928冊完了。現在進行中である。

### <研修部> 研修部主任 小幡 肇

#### 1. 『教育研究所紀要』第32号の発刊

2023年12月31日付で『教育研究所紀要』第32号発刊した。特集テーマは「『令和の日本型学校教育』の構築をめざす教育実践の可能性」とし、依頼論文2編を掲載。自由研究では、研究論文7編、研究ノート1編、実践報告3編、研究資料1編という内容であった。

#### 2. 『教育研究所ニュース』の発刊

『教育研究所ニュース』第52号を11月に発刊した。巻頭言を「ウィズ・コロナ時代の教科書展：SDGsを意識して」とし、世界の教科書展の報告、桶川市における世界の教科書巡回展と定例研究会のお知らせ、『文教大学の授業』の執筆者紹介を掲載した。

#### 3. 『文教大学の授業』の発刊

第84号「“Weather you like it or not”：気候変動の恐怖と実践的解決策」(文学部 ラメイ・アレック先生)、第85号「想像力から創造力へ、つながる授業」(教育学部 久保村里正先生)、第86号「自然・地域・人に学び、現場で試す実践型授業」(国際学部 海津ゆりえ先生)、第87号「参加型学習方法を取り入れた社会教育学に関する授業」(人間科学部 金藤ふゆ子先生)。

#### 4. 新刊行物「学校のいま」の発刊

創刊号の発刊に向け、インタビュー取材を終え、記事の作成中である。教職希望の現役学生向けの刊行物として発刊準備を整える。

#### 5. 教育研究所ホームページの運営・更新

前年度までと同様、教育研究所の各事業終了後は、速やかに研究所ホームページに掲載する情報の更新を行い、本研究所の事業活動を広く社会に発信することに努めた。

## 第29回「世界の教科書展 特集：マレーシアの教科書Ⅱ」

2023年11月3日(金)～5日(日)

研究部主任 山川 智子

### 実施概況

1994年度から開催している「世界の教科書展」は、教育研究所の特色ある取り組みのひとつである。1997年度の第4回の教科書展からは、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催してきた。多くの場合、ある地域の初等教育に焦点を当て、企画・運営を行ってきたが、研究所の方針により、特定科目の教科書に焦点をあて、それを複数の地域で比較した年もある。主として初等教育の教科書を展示し、教育制度や教科書の内容を紹介している。来場者と意見交換しながら教育研究を促進する場として、教科書展は発展してきた。

コロナ禍により、2020年度は教科書展の開催をやむなく断念することになった。教育研究所の歴史と伝統を次の世代につなぐための試行錯誤を重ね、2021・2022年度はオンライン（オンデマンド配信）で開催した。コロナ前の実施形態（教科書やパネルの展示、動画閲覧用のiPadの設置）と異なる形態での教科書展の開催に向け協議し、教科書の実物展示を行わず、パネル原稿の内容を教育研究所HPで公開とした。

2023年度は、対面での実施が可能となった。テーマは「マレーシアの教科書Ⅱ」とした。本研究所所長の手嶋将博先生がコーディネーターとなり、前年度オンデマンド開催のため実物展示が叶わなかった教科書の展示が可能となった。コロナ禍での経験を活かし、以下のような動画も用意した。（2023年度は対面開催が実現したので、動画は会場での視聴のみとした。）

- I 「世界の教科書展」開催にあたり（山川智子）
- II 特別講義「マレーシアの社会と文化」（手嶋将博）
  - ① マレーシア教育制度の概略
  - ② 語学教科書編
  - ③ マレー語講座
  - ④ 各教科の概説
  - ⑤ 自然科学科目 教科書編
  - ⑥ 社会科学科目 教科書編
  - ⑦ 実技系科目等 教科書編

コロナ禍での試練を乗り越え、「ウィズ・コロナ」時代における教科書展をさらに発展させるため、コロナ禍で培った「ノウハウ」も活かしていきたい。若い世代に引き継いでいくための方法を編み出すことも「ウィズ・コロナ」時代の課題となっている。学生たちに関わってもらいやすい教科書展の運営方法も検討し、皆で作上げていくという教科書展の伝統を引き続き守っていきたい。



## 世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション —特集 マレーシアの社会・文化・教育の変遷と現在—

日時：2023年12月8日（金）～12月13日（水）

会場：「OKEGAWA hon+」（桶川駅西口駅前桶川マイン3階）

共催：丸善雄松堂株式会社

研究部主任 山川 智子

### 実施概況

教育研究所は「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献」を目的とし、学内外の研究者の協力のもとに様々な研究に取り組んでいる。なかでも、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催される「世界の教科書展」は、教育研究所の特色あるイベントのひとつとなっている。1994年度からはじまり、1997年から藍蓼祭に参加する形で開催している。2020年度はコロナ禍で開催を見送り、2021・2022年度はオンラインで開催した。2023年度は対面開催ができるようになり、教科書の実物展示が可能となった。

研究成果を地域の方たちに還元すべく、2016年度から、桶川市、丸善雄松堂株式会社（教育・環境ソリューション事業部）、文教大学の三者共催で学外巡回展を行っている。こちらも2020年度は開催を見送ったが、2021・2022年度は教科書の実物展示を除いた開催方法をとった。期間中は、パネル展示でマレーシアの社会と教育の一端を可能な限り紹介した。2023年度から教科書の実物展示が可能となった。

パネル展示は開催期間を通して、教科書の実物展示は期間中の週末にあたる、12月9日（土）・10日（日）に行った（10時～16時）。

12月9日（土）は、本研究所所長の手嶋将博先生による公開講座「マレーシアの社会・文化・教育の概説—多様性と包摂性の視点から—」が開催された。大学と地域とで連携することで情報共有を可能にし、ともに教育を考えていく時代となった。そのため、この教科書展が、地域の方たちに教育研究所の活動を紹介する機会となればと願っている。会場に足を運んでくださった方たちとネットワークを構築し、それを今後の教育研究活動につなげていくことも目標としたい。

教育研究所では世界各地の教科書を収集し、保管してきた。2017年度には、モラロジー研究所から教科書の寄贈を受けた。およそ30か国・地域の教科書を保有し、その数は約1万冊に達する。世界の教科書の収集・管理、および教育研究活動への還元という地道な活動を長年継続している研究機関は国内でも珍しいと言われている。メディア関係者や他の研究機関からの問い合わせも増え、市民の方たちからも連絡をいただいている。今後、このような貴重資料の活用方法、社会への還元方法について引き続き検討を重ねていく。こうした試行錯誤の連続が「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たす」という研究所の理念に近づくと信じ、引き続き努力していきたい。



## 定例研究会

教育研究所所長 手嶋 將博

本年度の定例研究会は、2023年8月11日（金・祝：第102回）と、2024年3月2日（土：第104回）にオンライン方式で、また、2023年11月4日（土：第103回）藍蓼祭2日目に越谷校舎14402教室にて対面方式で実施した。第102・103・104回となる定例研究会の報告題目と発表者は以下の通りである。

「ビブリオバトルの多様な実践の在り方について－保育の質を高め、キャリアをつないでいくための実践を探る－」（学研アカデミー：綾 牧子）、「社会教育主事の役割と専門性について－“教科書”における表現と実践の場を通して－」（台東区教育委員会：阪本 陽子）、「豊かなかかわり合いの中で、今と未来にいきる－児童の自尊感情を育む体育科の授業改善－」（川越市立川越小学校：清水 香保里）、「特別支援教育における食農教育の研究」（越谷市立荻島小学校：木場 雪香）、「基礎教育の保障の課題－デュイの社会観を踏まえての夜間中学校の存在意義の検討－」（中央大学通信教育部：矢作 由美子）、「教員が学び続けるための環境」（一般社団法人子どもの成長と環境を考える会：塚原 元気）、「小学校英語教育をクリエイティブな視点からとらえることは可能か？」（越谷市立越ヶ谷小学校：大石 海）、「公立小学校内における多世代・異文化をベースとした居場所づくりと運営」（NPO法人地球対話ラボ：中川 真規子）、「就学前教育と小学校教育とのカリキュラム接続の研究」（彰栄保育福祉専門学校：梨子 千代美）、「教員の専門職性に関する研究－『教員』の専門性と『教職』の専門性を手掛かりにして－」（TAC株式会社：大西 健介）。

本研究が定期的に開催する定例研究会は、本学の教職員、学部生、大学院生をはじめ、本学を卒業・修了したOB・OGや現役の教員など、学内外を問わず誰でも参加、聴講、質疑応答ができる場であり、教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たすとともに、教育・教育現場をめぐるさまざまな状況の変化に応じて、常に新しい情報や知見を発信していくことを目的として行われている。



定例研究会の様子

### 2023年度定例研究会発表要旨

#### <第102回 2023/8/11（金）>

##### ビブリオバトルの多様な実践の在り方について

－保育の質を高め、キャリアをつないでいくための実践を探る－

綾 牧子

2022年度の授業実践について報告した。今までの実践と研究を踏まえ、学生の今後のキャリア構築も視野に入れた実践を目指した。そこで、「保育者同士で、保育に役立つ本を紹介する」という設定でグループ・ビブリオバトルを行った。学生は、自分に影響を与えた本を選んでバトルを経験した。また自由記述からは、ビブリオバトルのゲーム性を楽しみ、今回の経験を今後につなげようとする記述が見られた。引き続き、保育者のキャリアを重ねていく一助となるような実践の在り方を探りたい。

##### 社会教育主事の役割と専門性について

－“教科書”における表現と実践の場を通して－

阪本 陽子

「社会教育主事任用資格」は、2020（令和2）年に規定の改定が行われ、養成課程および講習における学習の一部が変わると同時に、「社会教育士」の称号が誕生した。養成課程となる大学の授業や養成研修での使用が想定される“教科書”となる書籍の分析と、養成課程の関係者の所感を集めることを通して、改めて「社会教育主事」の位置づけを見直すための研究の方向性を設計した。「社会教育主事」と「社会教育士」の相違などはまだ明らかになっていないとはいえず、今後の実践と整理・分析を重ねることが重要である。

#### <第103回 2023/11/4（土）>

##### 豊かなかかわり合いの中で、今と未来にいきる

－児童の自尊感情を育む体育科の授業改善－

清水 香保里

本研究は、令和4年度から行っている体育科の学校研究である。研究2年目は、学習過程や内容を掲示したプラスチック段ボールを立体化にするなど教材教具の改良を行った。児童の自尊感情を育むために、自己有用感を高める工夫を各学年で考え実施してきた。その結果、体育好きな児童や外遊びをする児童が増えた。令和6年度は、県と市で研究発表を予定し集大成としたい。

### 特別支援教育における食農教育の研究

木場 雪香

本発表では、食農教育の効果及び義務教育と特別支援教育の指導要領比較に取り組んだ。結果は、以下の4点だ。①2005年より食育基本法及び栄養教諭が設けられた。②食農教育は、子どもたちの食べ物や生産者への知識・理解及び技能を深める効果がある。③義務教育でも食農教育を実践することが可能だが、教科も時数も限られ、地域差もあり、単発での実践が多い。④特別支援教育では小中学校よりも食農教育を実践できる機会は多く、小中高等部一貫し継続した食農教育も可能と推定される。

### 基礎教育の保障の課題

#### －デューイの社会観を踏まえての夜間中学校の存在意義の検討－

矢作 由美子

本報告は、デューイの教育論と社会観を手掛かりに、民主的教育と包摂を取り巻く社会の変化において、いくつかの論点を示し、包摂概念をめぐる議論にどう夜間中学の教育が民主主義社会の発展に貢献できるかと考えた。さらに、SDGsの取り組みを踏まえ、本来の意味で包摂的(inclusive)になり、あらゆる人の就学を保障すること、その者たちの学力と生活の質(quality of life)を高めること、さらに進路を保障し、権利主体として社会に参加する力を育てる社会的に実装の場として機能しているのか検討した。

### 教員が学び続けるための環境

塚原 元気

教員が学び続けることの必要性が求められる中、特に他の教員の授業見学は時間的制約が大きく、実現が難しい現状に着目。この問題に対処するため、都立Y高校の主幹教諭A先生の協力により、授業を録画・編集し、動画を共有する仕組みを構築する提案を行う。これにより、教員同士が柔軟かつ効果的に学び合える環境を整備することが目的だ。授業を録画して共有することで、時間と場所に縛られない学びの機会が提供され、他者の授業を見ることで新たな知見を得ることが期待される。

### 小学校英語教育をクリティカルな視点からとらえることは可能か？

大石 海

本発表では、「小学校英語教育をクリティカルな視点からとらえることは可能か？」というタイトルのもと、批判的応用言語学(Critical Applied Linguistics: CALx)の視点から、日本の小学校英語教育クリティカルに検討することの重要性と可能性を指摘した。CALxを含むクリティカルな研究群の概念(トランスランゲージングや、resourceful speakersなど)を小学校英語教育にも援用することで、多角的・多層的な視点から英語教育の可能性を広げ得ることを主張した。

### <第104回 2024/3/2(土)>

#### 公立小学校内における多世代・異文化をベースとした居場所づくりと運営

中川 真規子

公立小学校内に「よそ者」がやってきてもう1つの学校を開校する「アート小学校」の実践報告を行った。アート小学校とは、現代アーティスト、大学生、若者、NPOスタッフなどの「普通」の学校にはないであろう人々と子どもたちがアートをする空間です。休み時間や放課後にやってきた子どもたちと「よそ者」たちは工作をしたり、絵を描いたり、雑談をしたり、何もしなかったりと思いつきの時間を過ごし、「対話」を積み重ねました。

### 就学前教育と小学校教育とのカリキュラム接続の研究

梨子 千代美

第二次世界大戦後から1980年代後半までの幼稚園と保育所(以下、幼保)に関連する教育法制を中心に取り上げ、幼保がどのような経緯をもって小学校教育との一貫性を見出し、教育接続の関係を目指したのか明らかにした。戦後の幼稚園と保育所の分離・対立の関係は、両者が普及し、発展するにしたがい、教育的機能面で歩み寄りが進んだ。このことから、保育の独自性を維持しつつ、小学校教育との一貫性が強調されるに至ったということが明らかになった。

### 教員の専門職性に関する研究

#### －「教員」の専門性と「教職」の専門性を手掛かりにして－

大西 健介

近年、我が国の教員を取り巻く状況は厳しさを増している。そうした中で、教員としての専門性を確定させ、専門職としての業務を定義する必要がある。本研究では、教師と教員の差異について検討した後に、教員の専門性に関する各種概念(教員の専門性、教師の専門性)について整理する。そして、「教員」の専門性が「教師」の専門性の影響を受け、教員という概念の混乱に至った可能性が示唆された。



## 諸外国の教科書収集

教育研究所では、設立当初より海外の教科書を収集してきた。収集した教科書は「世界の教科書展」に展示し、近年はマスコミからの問い合わせや取材依頼も多い。

### 1. 初等学校（計 28 カ国 2,247 冊）

（2024年3月31日現在）

国	教科	国語	社会	算数	理科	生活科	総合科	音楽	美術	体育・健康	実科	英語	日本語	道徳・宗教	情報	国際理解	その他	計（冊）
アメリカ		42	16	46	8		5										3	120
イギリス		20	12	8	12										10			62
イタリア		30	16	16	7		7		3			18		7			23	127
インド		141		5			10			7				9	15			187
インドネシア		6	12	6	6				6	2		6		6			6	56
エジプト		19	9	10	6	20						16		20				100
オーストラリア		60	7	23	18				6	10	6		3	3		1	7	144
オランダ		2	3	6	6							1					2	20
韓国		26	14	23	16	10		4	4	8	2	6		10			8	131
ケニア					3													3
シンガポール				23	13					6		5						47
スイス		2		1														3
スペイン		6	4	6	6		4					6		7	2		1	42
スリランカ		7		5								6		6				24
タイ		12	6	7	6	1	1		2	6	6	6					6	59
台湾		21	14	22	14	6	20		22	21		20						160
中国		10	11	16	15			6	5			44		6			1	114
ドイツ		8		11		20	4	2	3			17		3				68
トルコ		10	10	9	2	5		6				15		9	1		12	79
バングラディシュ		5		3								1					3	12
フィンランド		28	7	26	18							13						92
ブラジル		10	9	9	9				5			5		11			6	64
フランス			10	7								20						37
ベトナム		14	4	8	6	2		5	5	3	2			4			2	55
ポーランド		1		1	1													3
マレーシア		36	6	33	22	7		3	5	15	3	33		24	3		15	205
ラオス		10		10		10			5	5		6					5	51
ロシア		51	1	27	3	26		4	9	4	11	36			7		3	182
計		577	171	367	197	107	51	30	80	87	30	280	3	125	38	1	103	2,247

## 2. 中等学校(前期・後期) (計 16 カ国 766 冊)

(2024年3月31日現在)

国	教科	国語	社会	歴史	地理	公民	数学	科学	生物	化学	物理・地学	音楽・美術	体育	家政・技術	外国語	道徳・宗教	情報	その他	計(冊)
アメリカ			1	1	1					2								1	6
イギリス		8	8	3	3	2	4	6	1	1	1	2			2		2		43
インドネシア		3	3			3	3	3							3	3		3	24
韓国		5	2	2			3	3				4	2	3	5	2		3	34
シンガポール				3	7		3		1	4	2			2	4				26
スペイン		5		2	3	1	5	2	1		2	1	4	3		4			33
タイ		8	4				10	1	1	1	2	2	2	6				3	40
台湾		9	18	3	3	3	10	17	1			6	6		12			6	94
中国		9		16	8		10		6	5	7	8			11			1	81
ドイツ		3	2	31	9		8	2	3	2	2	5		1	8		2		78
トルコ		12	2	2	4	1	9	4	2	1	2	2	1		3	10			55
ネパール							1	1							1				3
フィンランド		3	4	3	3		6		5	1	1	4	1	1	6	1		1	40
フランス		3		2	1		2								20				28
ラオス		14		7	7	7	8		3	3	3		1	8	18			15	94
ロシア		15	6	9	4		8		4	4	3	10	3	2	5	6	2	6	87
計		97	50	84	53	17	90	39	28	24	25	44	20	26	98	26	6	39	766

## 3. 公益財団法人モラロジー研究所からの受贈コレクション (計 18 カ国 7,249 冊)

2017年、公益財団法人モラロジー研究所の施設建て替えにともない、18カ国7,249冊にも及ぶ教科書の寄贈を受けた。諸外国の教科書は、以下のとおりである。

国名	受贈冊数	国名	受贈冊数
アメリカ	1,489 冊	ドイツ	760 冊
イギリス	735 冊	旧東ドイツ	48 冊
イタリア	497 冊	旧西ドイツ	256 冊
カナダ	266 冊	ロシア	39 冊
スウェーデン	81 冊	旧ソ連	280 冊
スイス	150 冊	韓国	549 冊
スペイン	150 冊	中国	832 冊
フィンランド	97 冊	香港	236 冊
フランス	616 冊	台湾	168 冊

## 2024年度事業計画

### <研究部>

研究部主任 山川 智子

#### 1. 「世界の教科書展」の実施

教科書展は1994年から実施してきた企画である。コロナ禍で見合わせていた対面開催も2023年度から再開し、2024年度も引き続き学園祭（藍蓼祭）での対面開催を行う。ベトナムの教科書・パネルの現物展示、さらに可能であれば動画配信を行う。2016年度から続く学外展示として、「OKEGAWA hon+」（桶川）でも「世界の教科書展」を開催予定。実施方法は、藍蓼祭の形態に準ずる。（いずれも、感染症の状況及びその対策等をふまえて検討していく。）2024年度から東京あだちキャンパスでの巡回展（原則、前年度の桶川展示を活用）も行う予定である。

#### 2. 『教育研究所年報』第33号の発刊

2024年5月に発刊（本誌）。世界の教科書展、定例研究会の報告など、前年度の活動報告および今年度活動計画を中心に掲載（全11頁）。

#### 3. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関（他大学を含む）から12名の申請者があり、受け入れを承認した。

#### 4. 「定例研究会」の実施

2024年度は年3回（8月、11月、3月・通算第105、106、107回）を実施予定。開催方法は感染症等の状況をふまえて検討。

#### 5. 海外の教科書データベースのデジタル管理化

収集した海外の教科書データベースのデジタル化を進め、各国・校種・学年の教科書の表紙画像を加える等、より検索しやすく整理・アップグレードして管理を実施していく。

### <研修部>

研修部主任 小幡 肇

#### 1. 『教育研究所紀要』第33号の発刊

『教育研究所紀要』第33号の特集テーマは4月の研究所会議にて正式決定し、5月中旬に、特集テーマに関する論文の依頼、および投稿論文等の募集を開始。原稿の締め切りは9月下旬で、2024年12月に発刊予定。

#### 2. 『教育研究所ニュース』53号の発刊

本研究所の事業の進捗状況や活動の報告を中心に、学内外にそれを知らしめていく広報誌としての役割を担う本誌は、5月に『教育研究所年報』が出る関係から、2018年度より年1回の発刊となり、2024年11月に発刊予定。

#### 3. 『文教大学の授業』88、89、90、91号の発刊

引き続き、文教大学の教員の授業を学内外に紹介していく。2024年度は、教育学部 長島雅裕先生（5月・第88号）、国際学部 阿野幸一先生（7月・第89号）、文学部 グラハム児夢先生（10月・第90号）、情報学部 奥村真司先生（1月・第91号）に執筆いただく予定。

#### 4. 刊行物「学校のいま」の発刊

本校卒業生の現職教員に、現在の学校現場の実際の様子や教員の働き方などに関する意見を聞くという趣旨で、インタビュー形式で紹介してもらう刊行物「学校のいま」を、年1回発刊予定。

#### 5. 教育研究所ホームページの運営・更新

各コンテンツの整備と発信内容の精査、積極的な情報発信に力を入れていく。

## 2023年度

所長	手嶋 將博		
研究部主任	山川 智子		
研修部主任	小幡 肇		
事務	河口 恭子		
客員研究員	綾 牧子	阪本 陽子	清水香保里
	矢作由美子	中川真規子	木場 雪香
	松嶋 淑恵	梨子千代美	塚原 元気
	大西 健介	大石 海	

## 2024年度

所長	手嶋 將博		
研究部主任	山川 智子		
研修部主任	小幡 肇		
事務	河口 恭子		
客員研究員	綾 牧子	阪本 陽子	清水香保里
	矢作由美子	中川真規子	木場 雪香
	松嶋 淑恵	梨子千代美	塚原 元気
	大西 健介	大石 海	丸山 悦子

教育研究所年報 第 33 号

---

発行日 2024 年 5 月 5 日

発行者 文教大学教育研究所  
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島 3337  
電話 048-974-8811

印刷 有限会社 カワカミ印刷  
電話 048-976-0007

---